

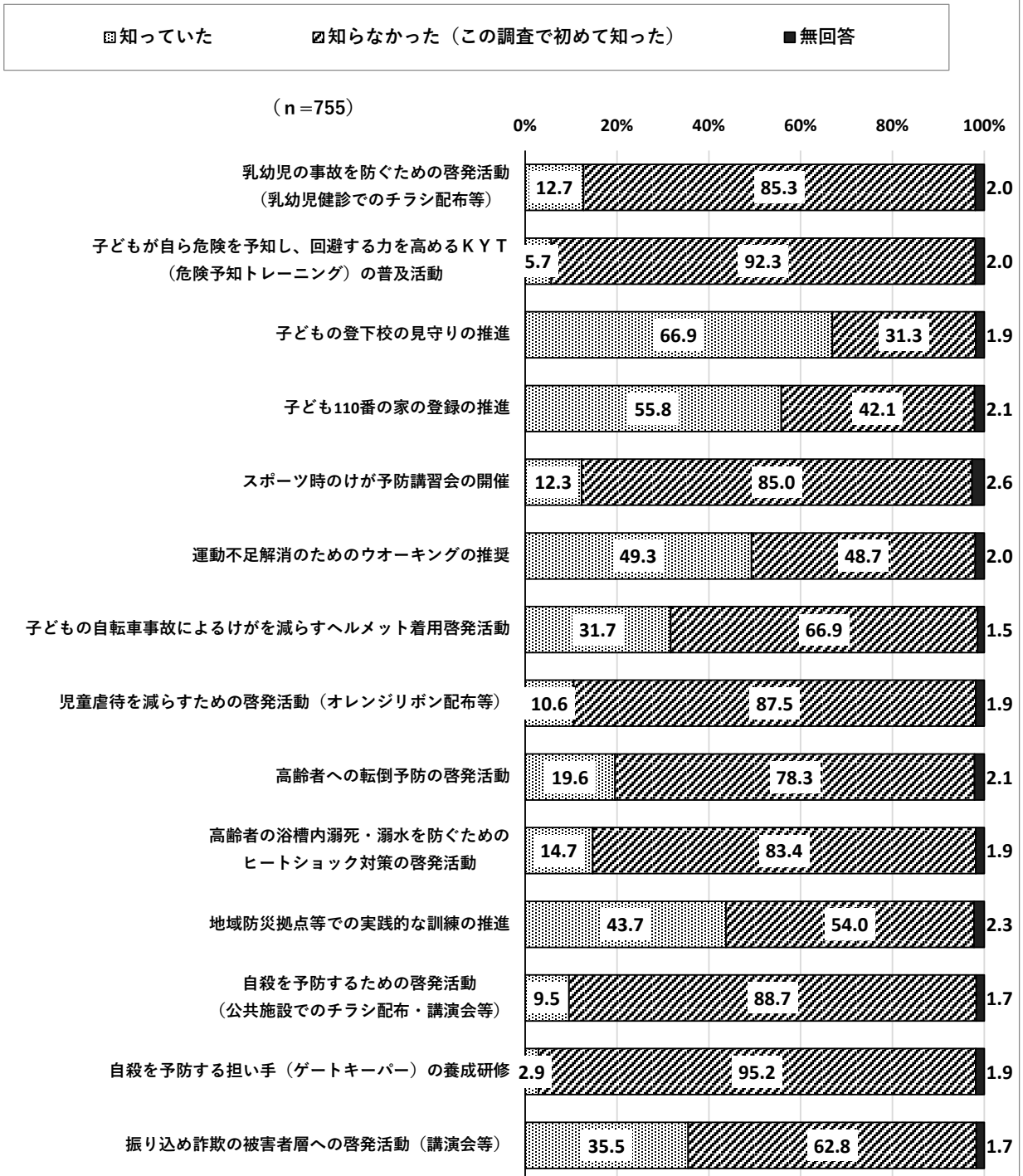
3 セーフコミュニティの取組

(6) けが・事故等の予防の取組の認知度

<全体>

・セーフコミュニティの取組について「知っていた」割合は「子どもの登下校の見守りの推進」が66.9%で最も多く、次いで「子ども110番の家の登録の推進」(55.8%)、「運動不足解消のためのウォーキングの推奨」(49.3%)の順となった。その一方、「自殺を予防する担い手(ゲートキーパー)の養成研修」「子どもが自ら危険を予知し、回避する力を高めるKYT(危険予知トレーニング)の普及活動」を「知らなかった」割合は9割以上となった。

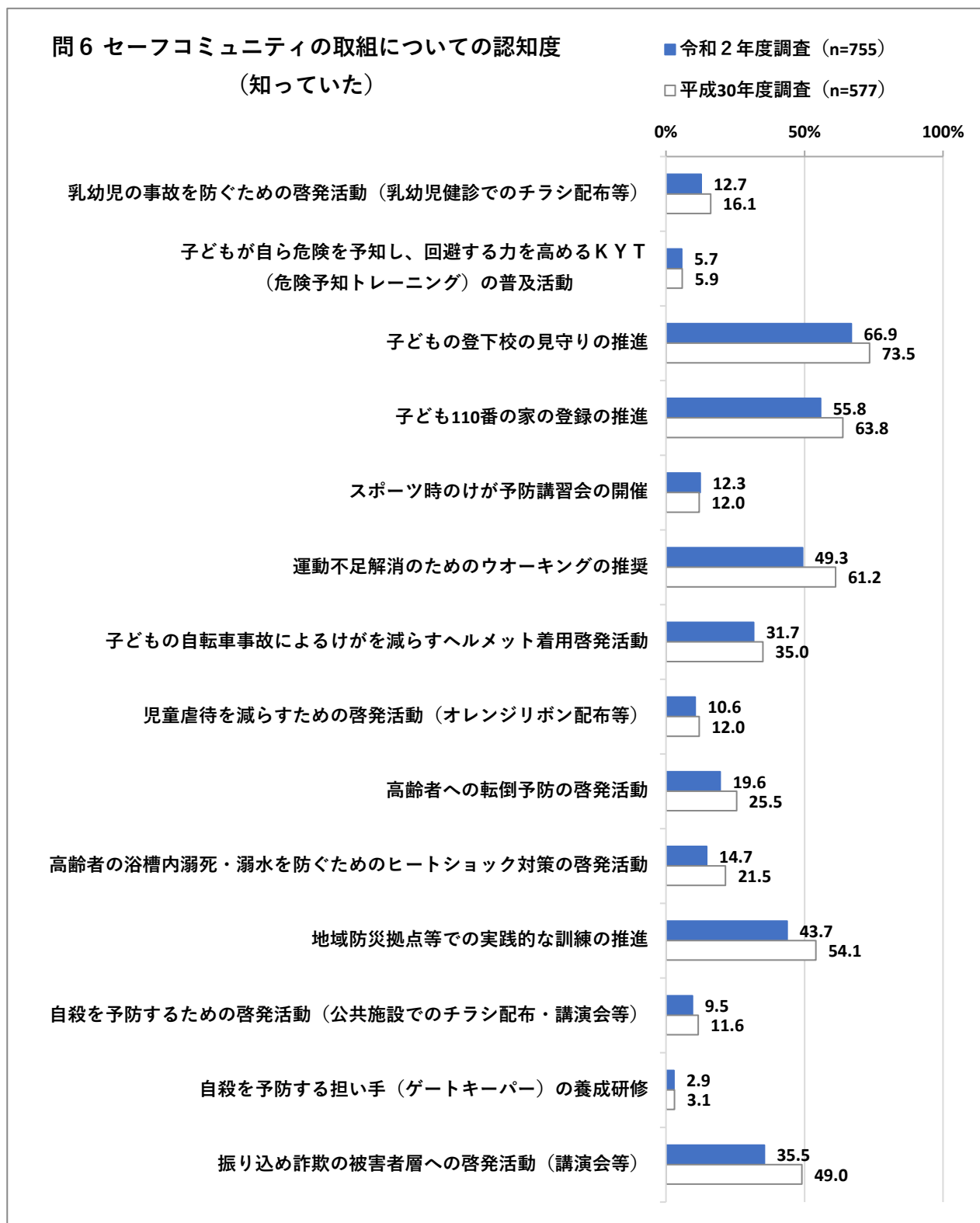
問6 セーフコミュニティの取組についての認知度



【けが・事故等の予防の取組の認知度： 時系列】

＜平成30年度調査と比較＞

・平成30年度と比較すると、「スポーツの時のけが予防講習会の開催」を除いて、全ての項目で認知度は減少している。



【けが・事故等の予防の取組の認知度： 属性別】

1 乳幼児の事故を防ぐための啓発活動（乳幼児健診でのチラシ配布等）

<性別>

・「知っていた」の割合は、「男性」より「女性」の方が9.5ポイント高い。

<年齢別>

・「30～39歳」では、「知っていた」の割合が全体より15ポイント以上高く、「20～29歳」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

・「5～9年」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高い。

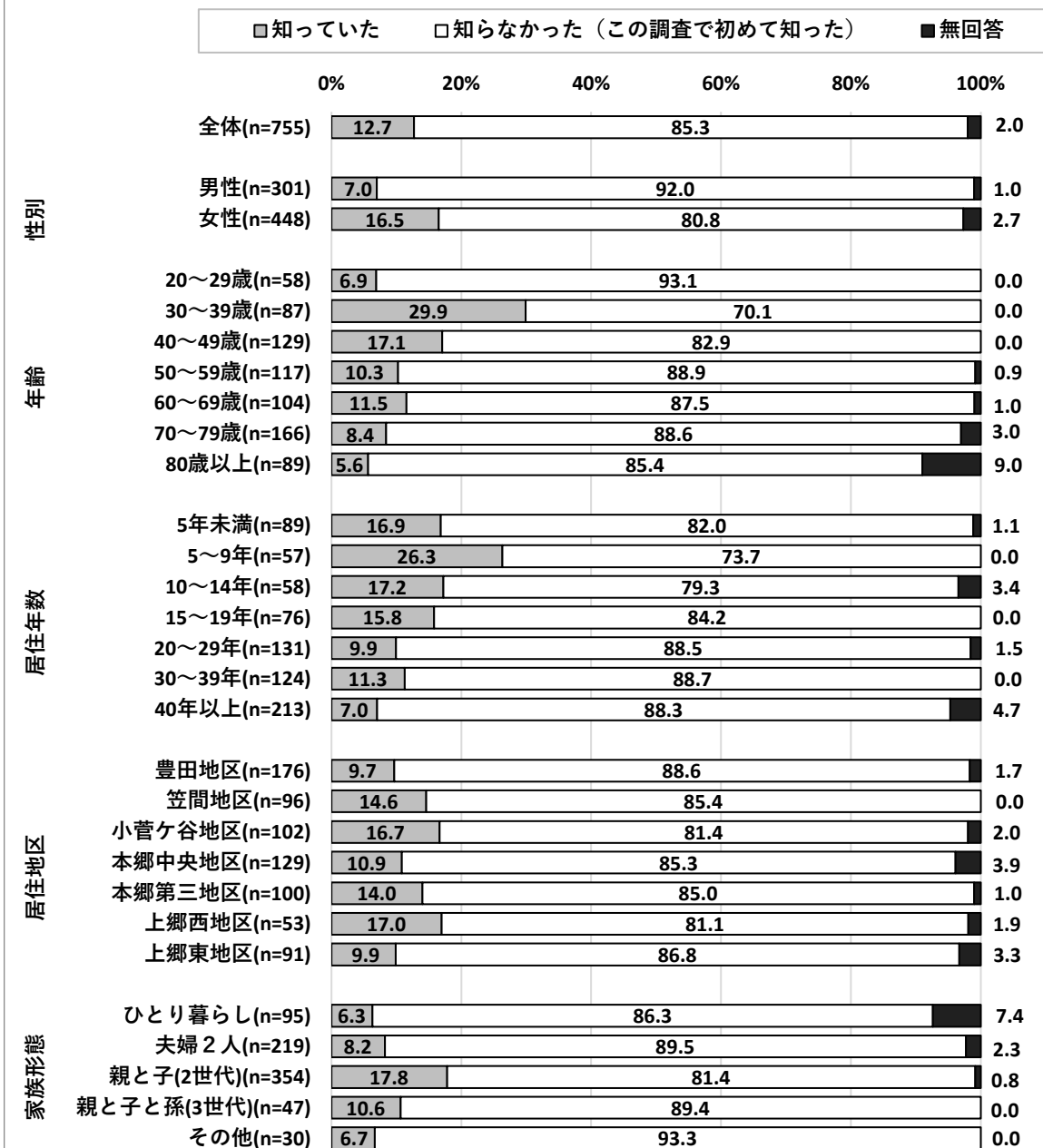
<居住地区別>

・居住地区別には、大きな差は見られない。

<家族形態別>

・「親と子(2世代)」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

1 乳幼児の事故を防ぐための啓発活動（乳幼児健診でのチラシ配布等）



2 子どもが自ら危険を予知し、回避する力を高めるKYT（危険予知トレーニング）の普及活動

<性別>

・性別には、大きな差はみられない。

<年齢別>

・年齢別には、大きな差は見られない。

<居住年数別>

・居住年数別には、大きな差は見られない。

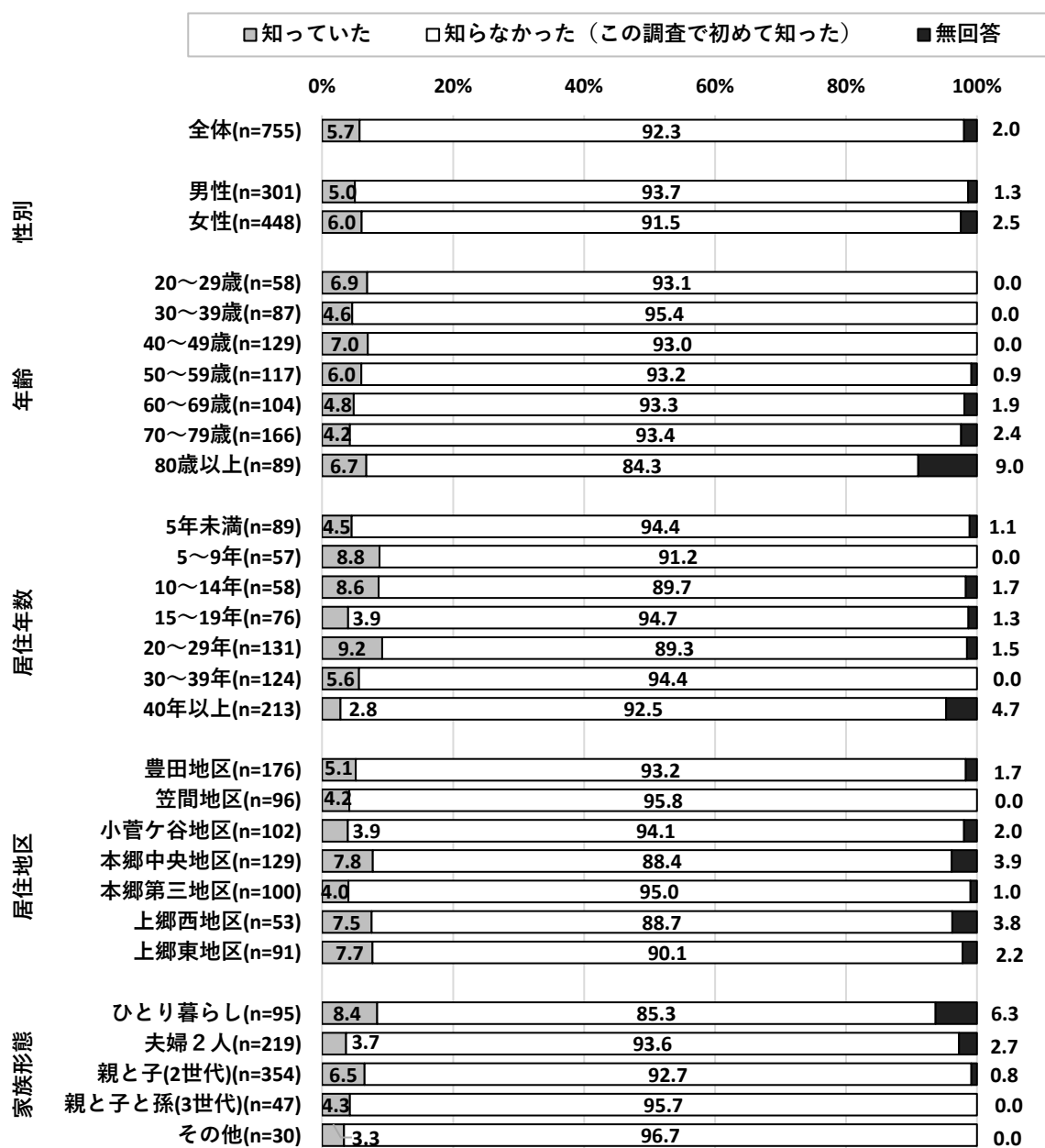
<居住地区別>

・居住地区別には、大きな差は見られない。

<家族形態別>

・家族形態別には、大きな差は見られない。

2 子どもが自ら危険を予知し、回避する力を高めるKYT（危険予知トレーニング）の普及活動



### 3 子どもの登下校の見守りの推進

#### <性別>

・「知っていた」の割合は、「男性」より「女性」の方が4.7ポイント高い。

#### <年齢別>

・「30～39歳」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。30歳以上は、年齢が上がるほど認知度が高くなる傾向がみられる。

#### <居住年数別>

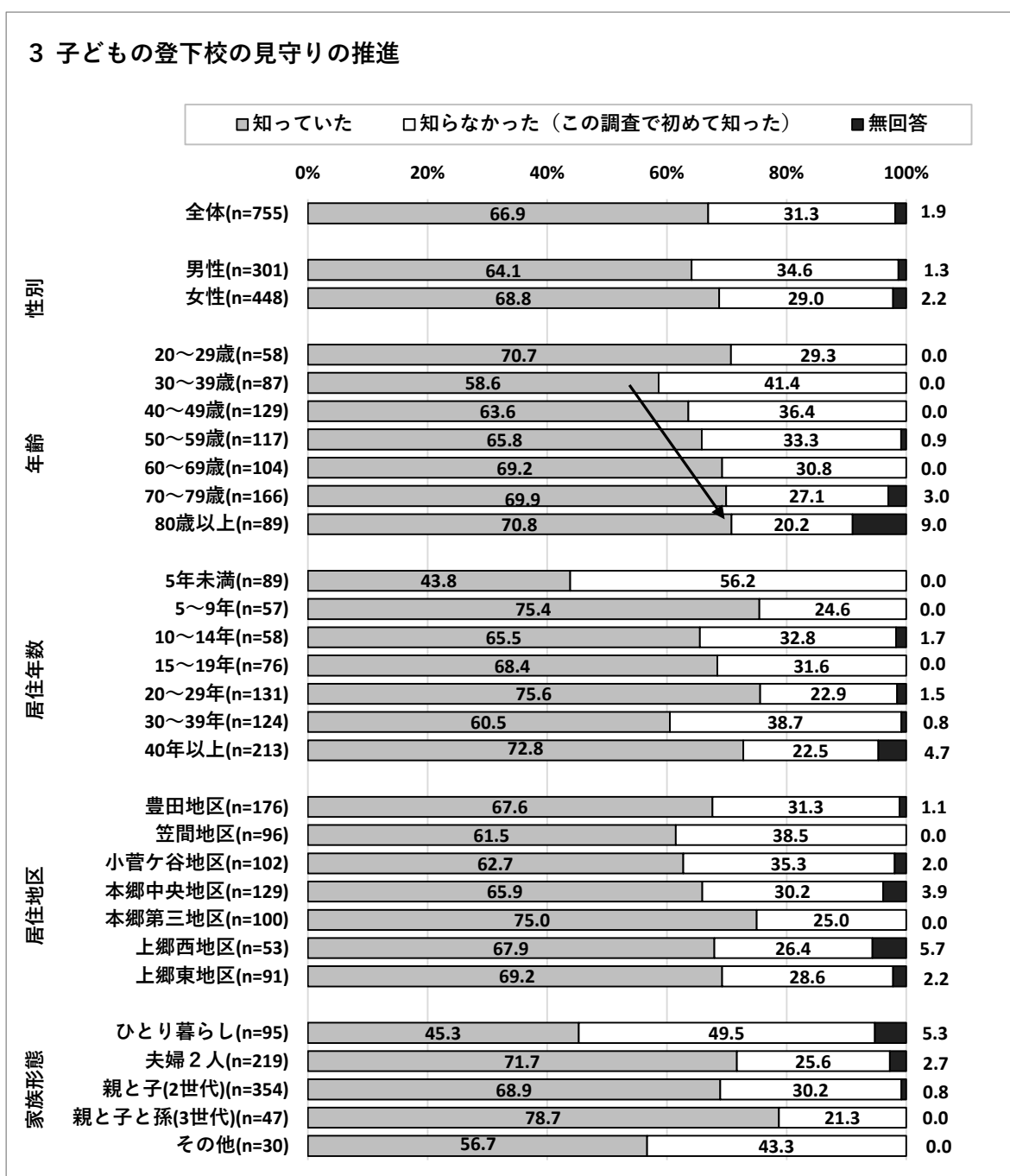
・「5～9年」「20～29年」「40年以上」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「5年未満」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

#### <居住地区別>

・「本郷第三地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「笠間地区」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

#### <家族形態別>

・「親と子と孫(3世代)」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、「ひとり暮らし」では、「知らなかった」の割合が全体より15ポイント以上高い。



#### 4 子ども110番の家の登録の推進

##### <性別>

・「知っていた」の割合は、「男性」より「女性」の方が11.8ポイント高い。

##### <年齢別>

・「50～59歳」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「30～39歳」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

##### <居住年数別>

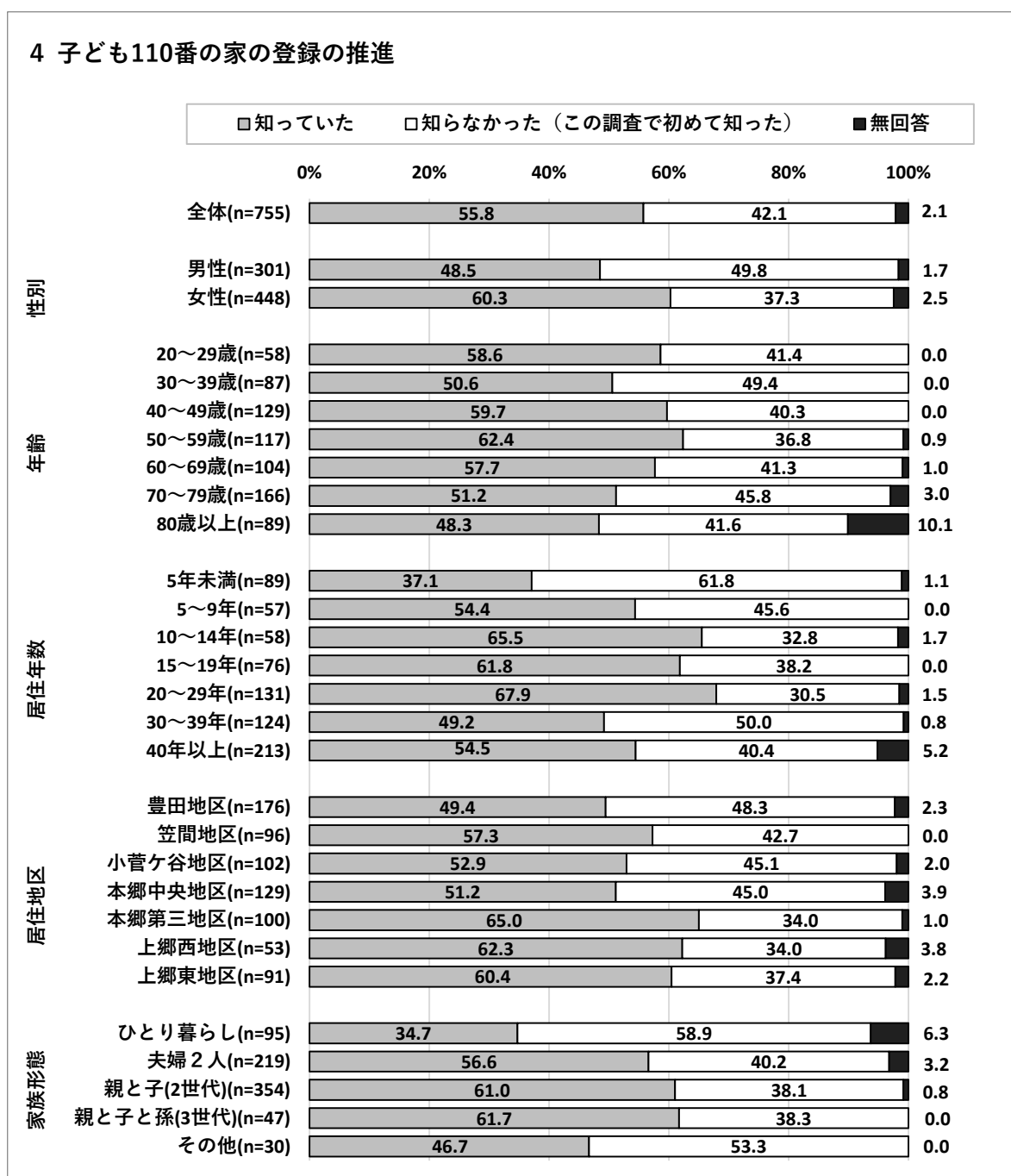
・「20～29年」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、「5年未満」では、「知らなかった」の割合が全体より15ポイント以上高い。

##### <居住地区別>

・「本郷第三地区」「上郷西地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「豊田地区」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

##### <家族形態別>

・「親と子(2世代)」「親と子と孫(3世代)」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「ひとり暮らし」では、「知らなかった」の割合が全体より15ポイント以上高い。



5 スポーツ時のけが予防講習会の開催

<性別>

・性別には、大きな差はみられない。

<年齢別>

・「60～69歳」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「20～29歳」「30～39歳」「40～49歳」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

・「5年未満」「15～19年」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

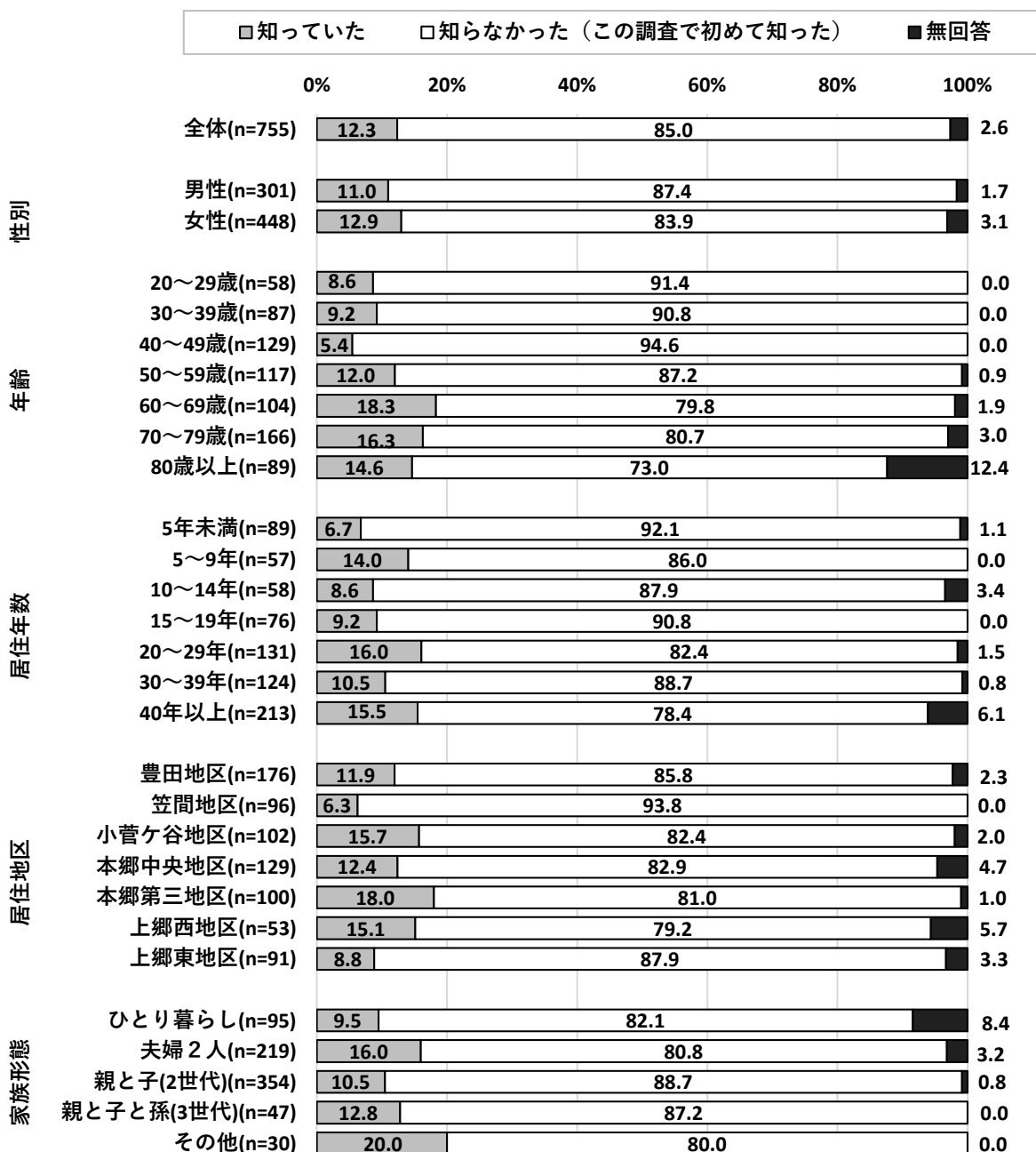
<居住地区別>

・「本郷第三地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「笠間地区」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別には大きな変化は見られない。

5 スポーツ時のけが予防講習会の開催



6 運動不足解消のためのウォーキングの推奨

<性別>

・「知っていた」の割合は、「男性」より「女性」の方が5.5ポイント高い。

<年齢別>

・「60～69歳」「70～79歳」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、「70～79歳」までは、年齢が上がるほど認知度が高くなる傾向がみられる。

<居住年数別>

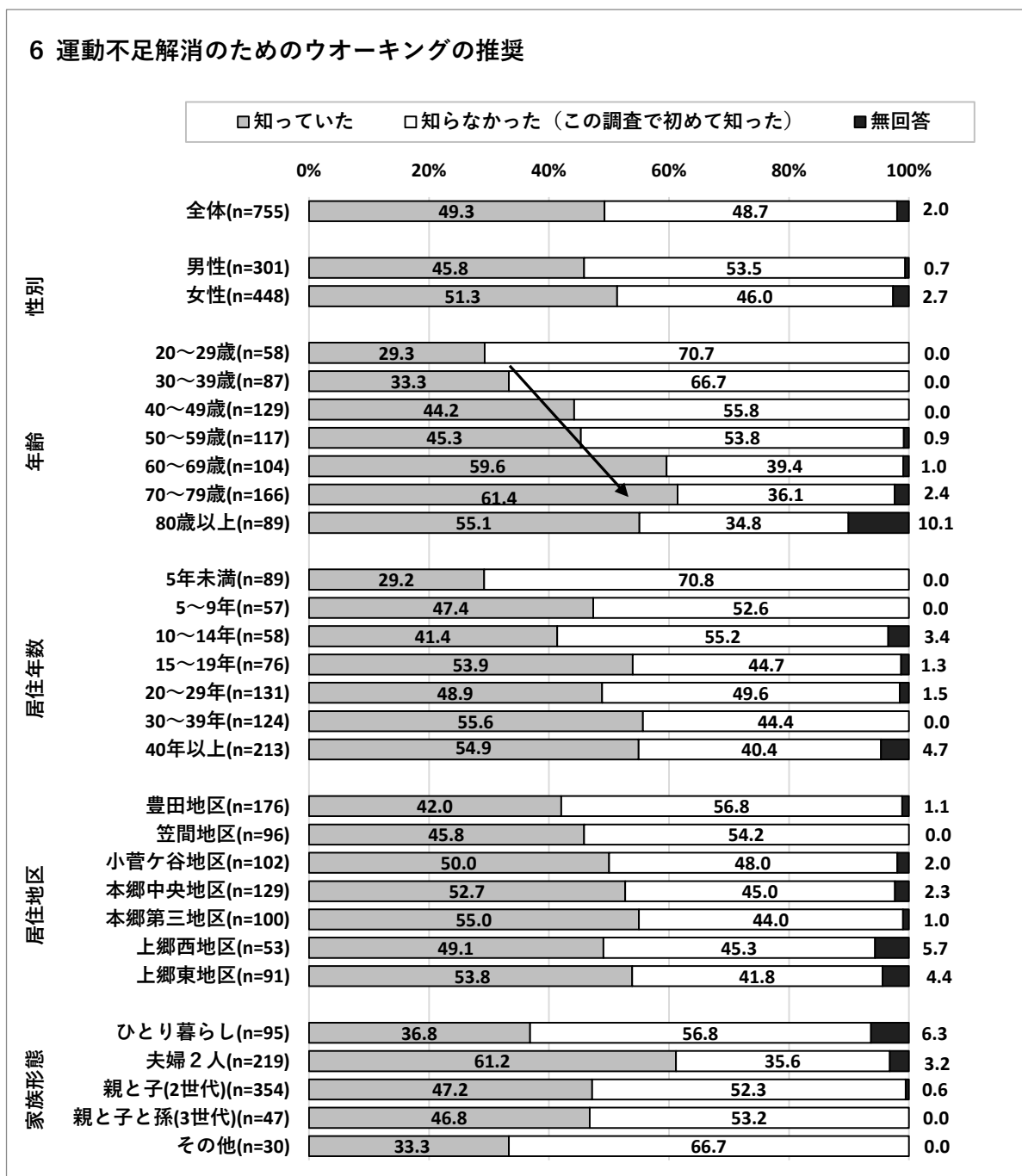
・「30～39年」「40年以上」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「5年未満」では、「知らなかった」の割合が全体より20ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「本郷第三地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「豊田地区」「笠間地区」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「夫婦2人」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、「ひとり暮らし」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。





7 子どもの自転車事故によるけがを減らすヘルメット着用啓発活動

<性別>

・「知っていた」の割合は、「男性」より「女性」の方が6.1ポイント高い。

<年齢別>

・「70～79歳」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、「30～39歳」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上、「40～49歳」「50～59歳」では5ポイント以上高い。

<居住年数別>

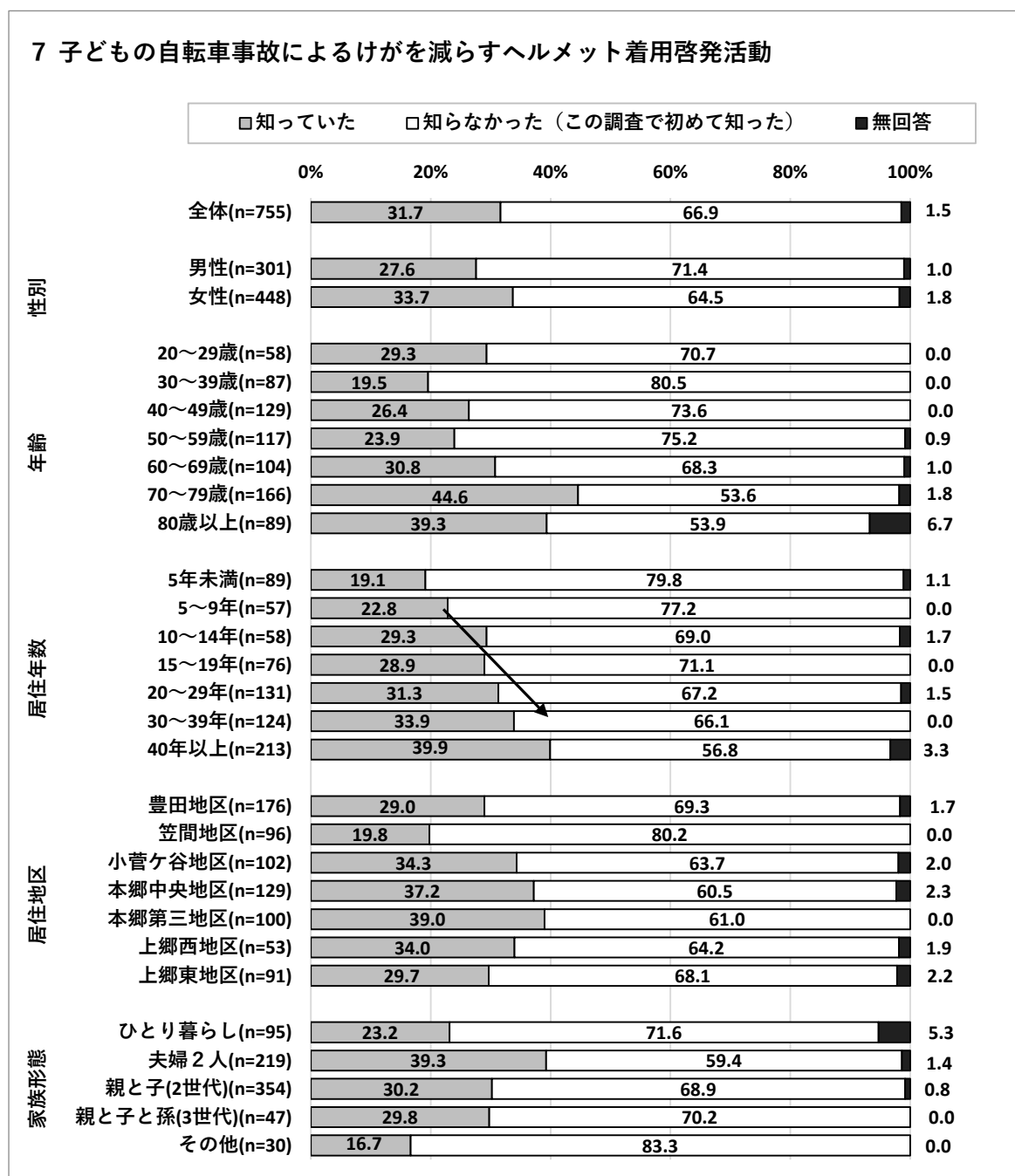
・「40年以上」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「5年未満」「5～9年」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。また、居住年数が長いほど「知っていた」の割合が増加する傾向がみられる。

<居住地区別>

・「本郷中央地区」「本郷第三地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「笠間地区」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「夫婦2人」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。



8 児童虐待を減らすための啓発活動（オレンジリボン配布等）

<性別>

・性別には、大きな差はみられない。

<年齢別>

・年齢別には、大きな差は見られない。

<居住年数別>

・「5～9年」「20～29年」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

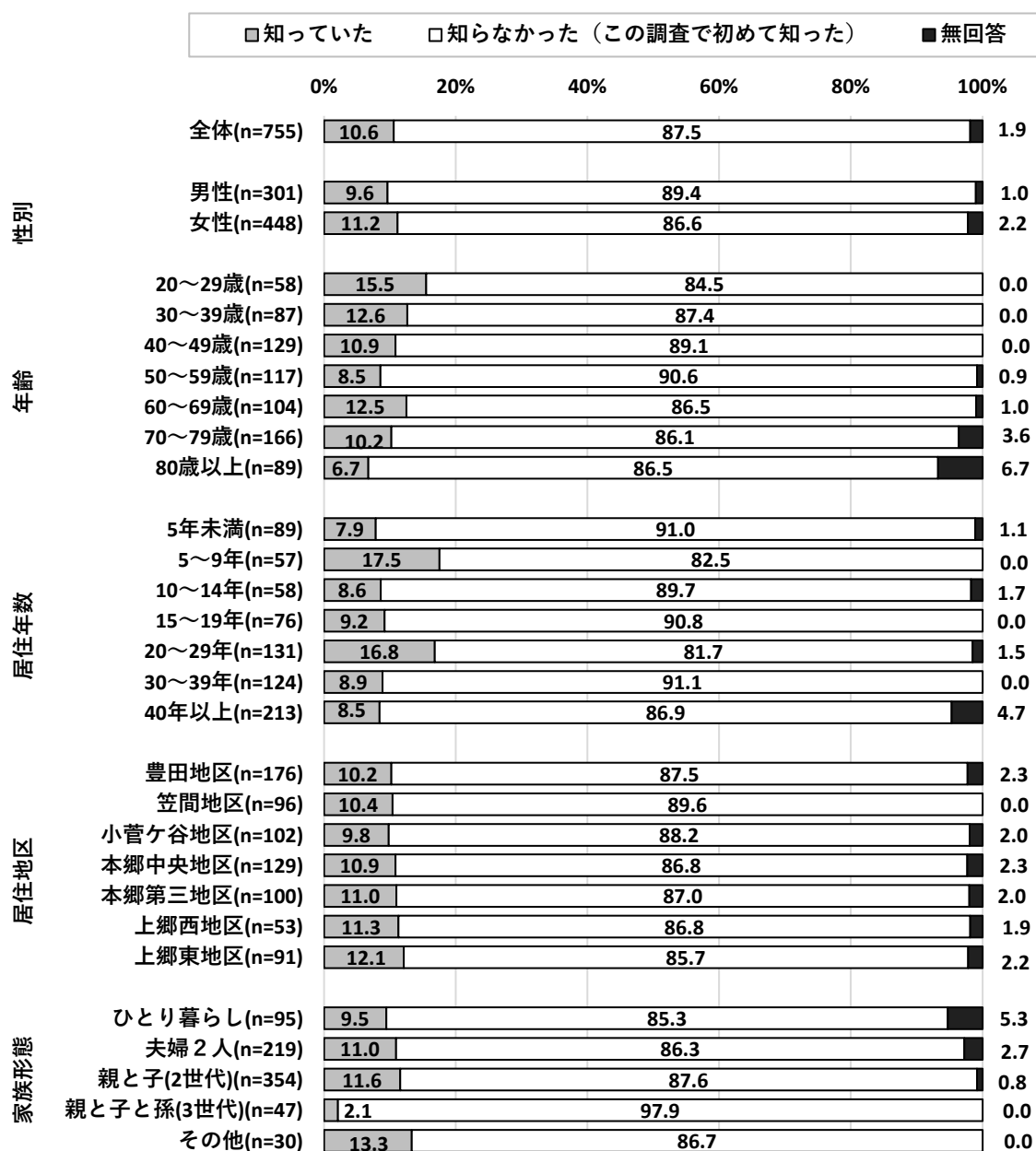
<居住地区別>

・居住年数別には、大きな差は見られない。

<家族形態別>

・「親と子と孫(3世代)」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

8 児童虐待を減らすための啓発活動（オレンジリボン配布等）



9 高齢者への転倒予防の啓発活動

<性別>

・性別には、大きな差はみられない。

<年齢別>

・「70～79歳」では、「知っている」が全体より10ポイント以上高く、30代から70代までは、年齢が上がるほど「知っていた」の割合が増加する傾向が見られる。

<居住年数別>

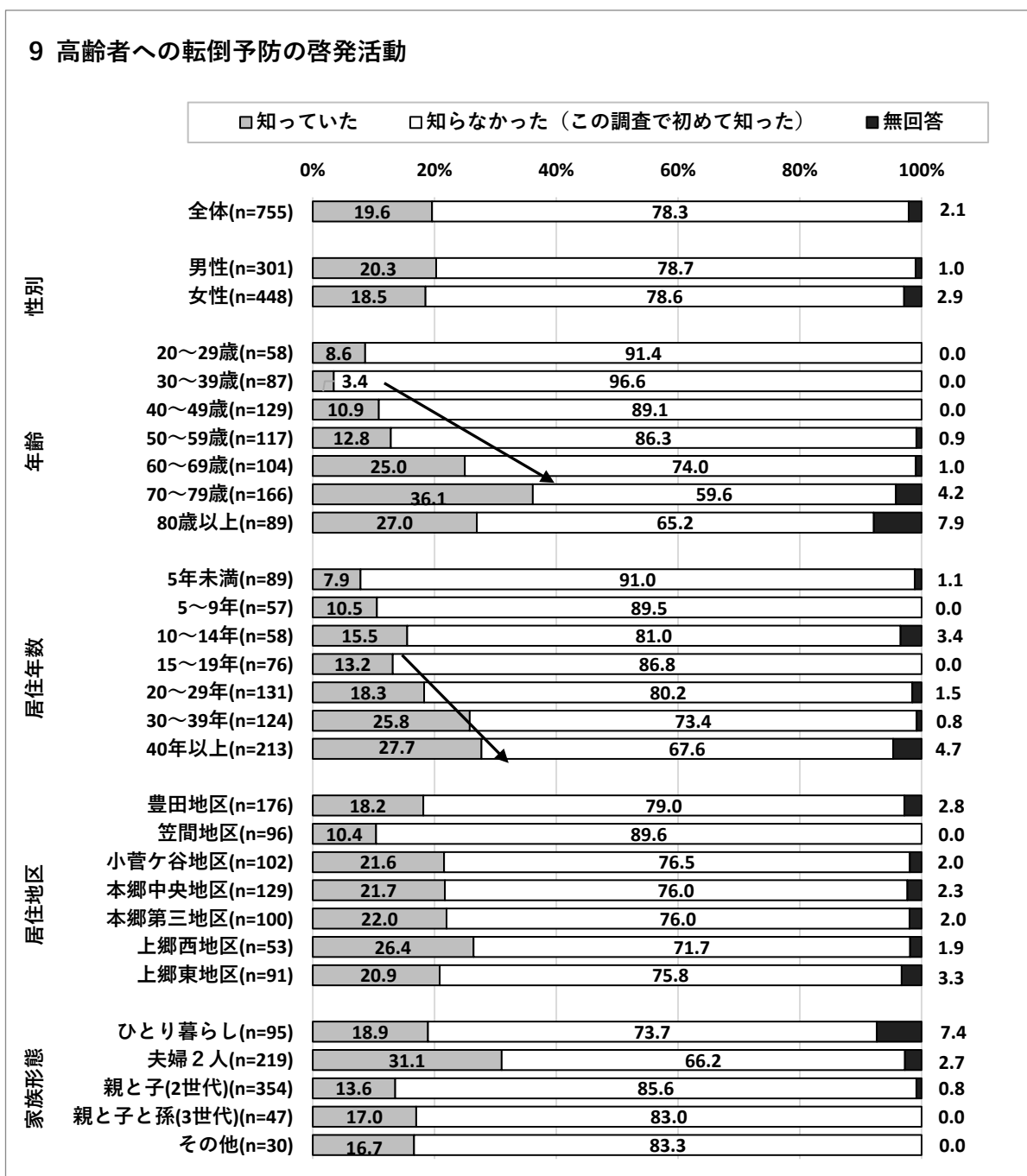
・「5年未満」「5～9年」では、「知らなかった」が全体より10ポイント以上高く、居住年数が「15～19年」以上になると、長くなるほど「知っていた」の割合が増加する傾向が見られる。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「笠間地区」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「夫婦2人」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、「親と子(2世代)」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。



10 高齢者の浴槽内溺死・溺水を防ぐためのヒートショック対策の啓発活動

<性別>

・性別には、大きな差はみられない。

<年齢別>

・「30～39歳」では、「知らなかった」が全体より10ポイント以上高く、30代から70代までは、年齢が上がるほど「知っていた」の割合が増加する傾向が見られる。

<居住年数別>

・「40年以上」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「5年未満」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上、「15～19年」では、5ポイント以上高い。

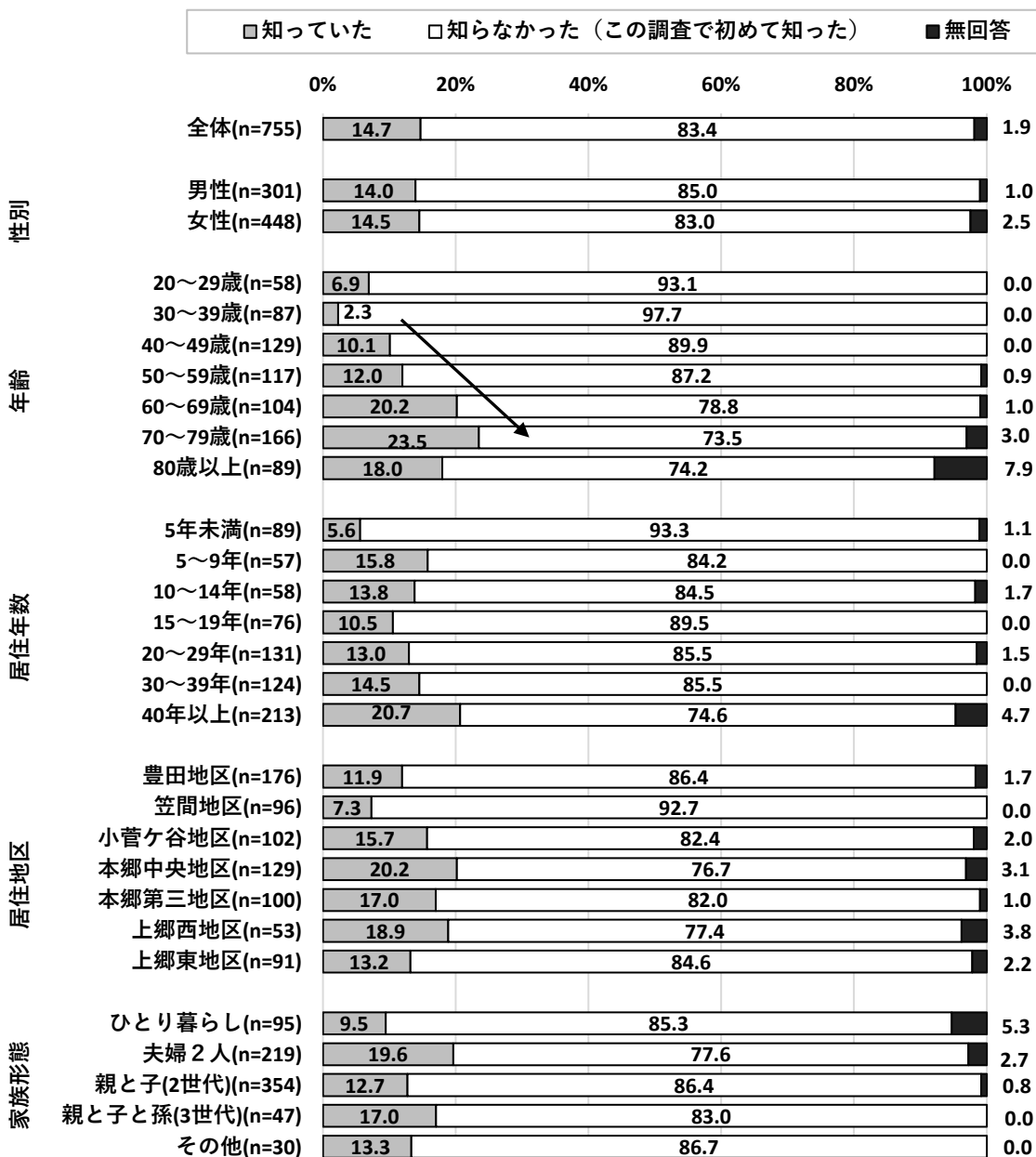
<居住地区別>

・「本郷中央地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「笠間地区」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別には、大きな差は見られない。

10 高齢者の浴槽内溺死・溺水を防ぐためのヒートショック対策の啓発活動



11 地域防災拠点等での実践的な訓練の推進

<性別>

・「知っていた」の割合は、「男性」より「女性」の方が4.2ポイント高い。

<年齢別>

・「70～79歳」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、「30～39歳」「40～49歳」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

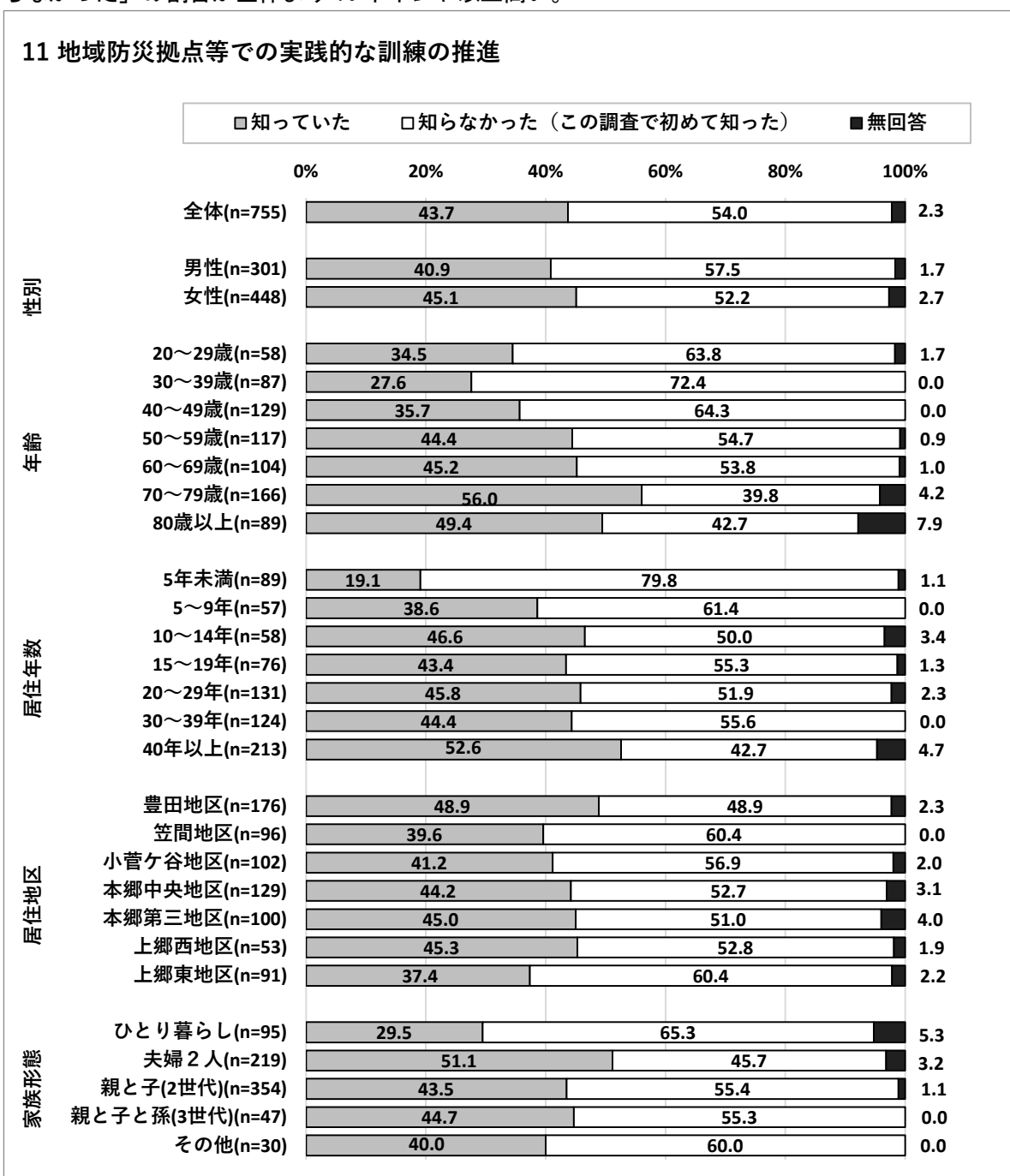
・「40年以上」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「5年未満」では、「知らなかった」の割合が全体より25ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「豊田地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「笠間地区」「上郷東地区」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「夫婦2人」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「ひとり暮らし」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。



12 自殺を予防するための啓発活動（公共施設でのチラシ配布・講演会等）

<性別>

・性別には、大きな差はみられない。

<年齢別>

・年齢別には、大きな差は見られない。

<居住年数別>

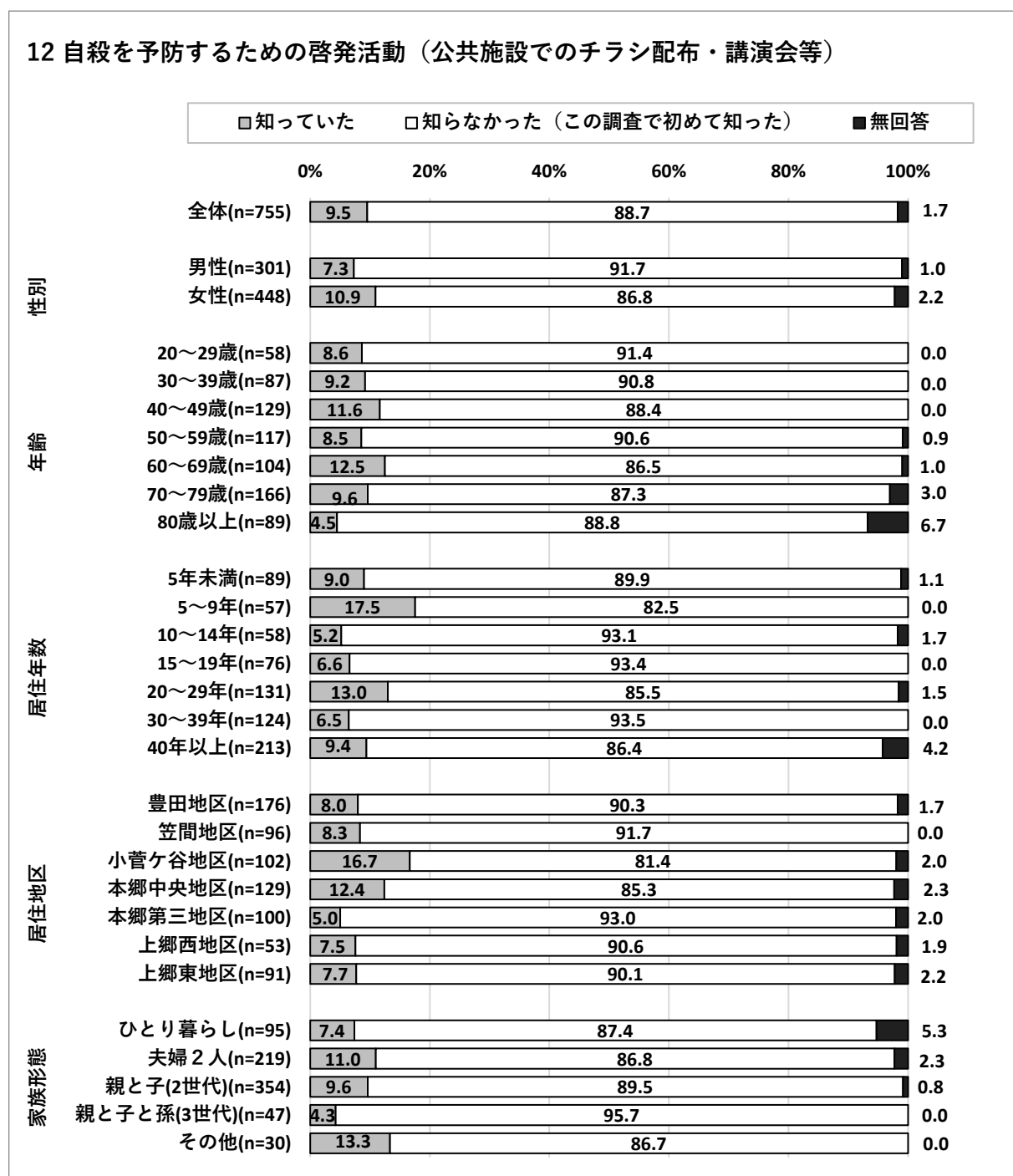
・「5～9年」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「小菅ヶ谷地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子と孫（3世代）」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。



13 自殺を予防する担い手（ゲートキーパー）の養成研修

<性別>

・性別には、大きな差はみられない。

<年齢別>

・年齢別には、大きな差は見られない。

<居住年数別>

・居住年数別には、大きな差は見られない。

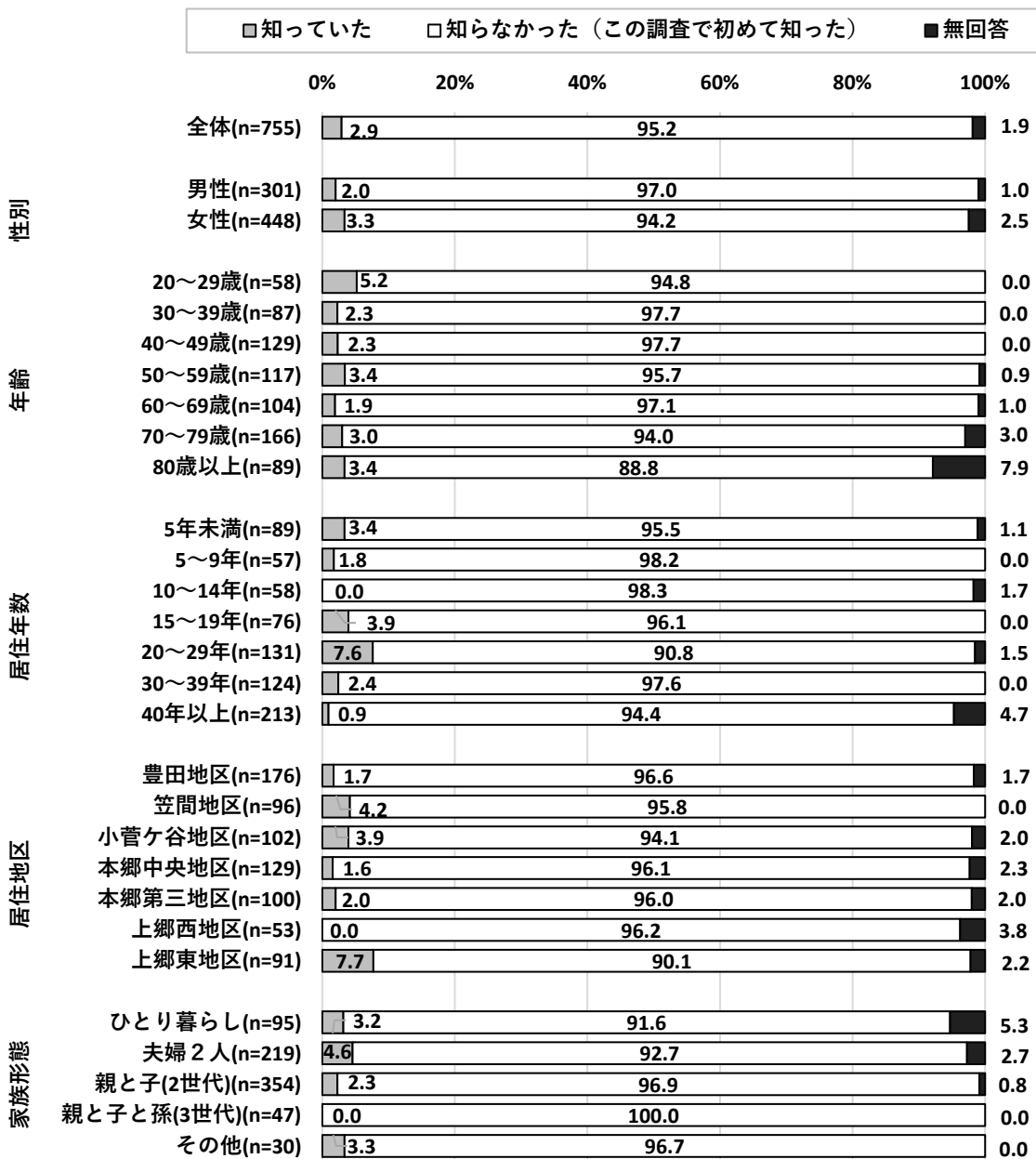
<居住地区別>

・居住地区別には、大きな差は見られない。

<家族形態別>

・家族形態別には、大きな差は見られない。

13 自殺を予防する担い手（ゲートキーパー）の養成研修



14 振り込め詐欺の被害者層への啓発活動（講演会等）

<性別>

・性別には、大きな差はみられない。

<年齢別>

・「80歳以上」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上、「60～69歳」では5ポイント以上高く、年齢が上がるほど「知っていた」の割合が高くなる傾向が見られる。

<居住年数別>

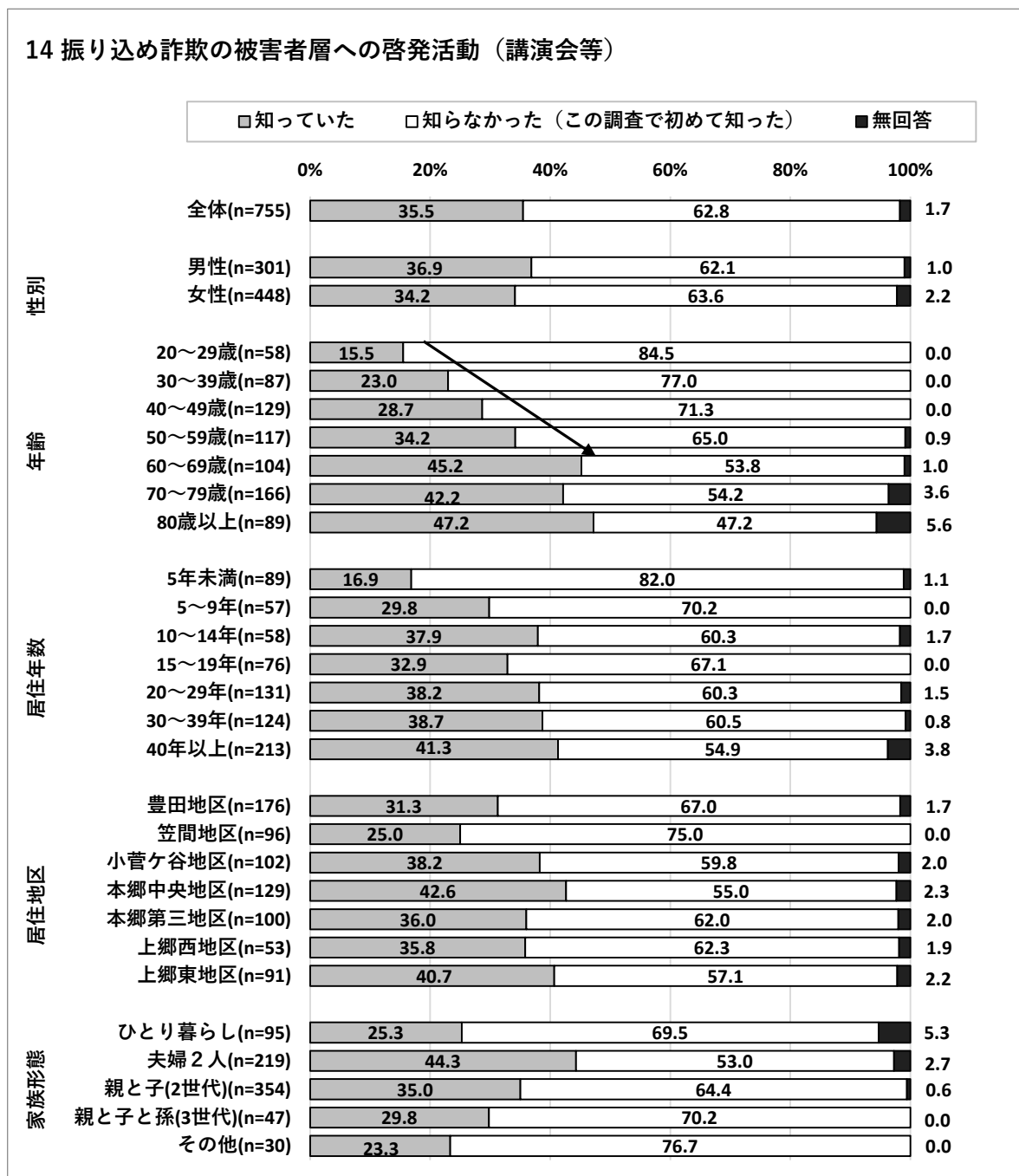
・「40年以上」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「5年未満」では、「知らなかった」の割合が全体より15ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「本郷中央地区」「上郷東地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「笠間地区」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「夫婦2人」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「ひとり暮らし」「親と子と孫（3世代）」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。





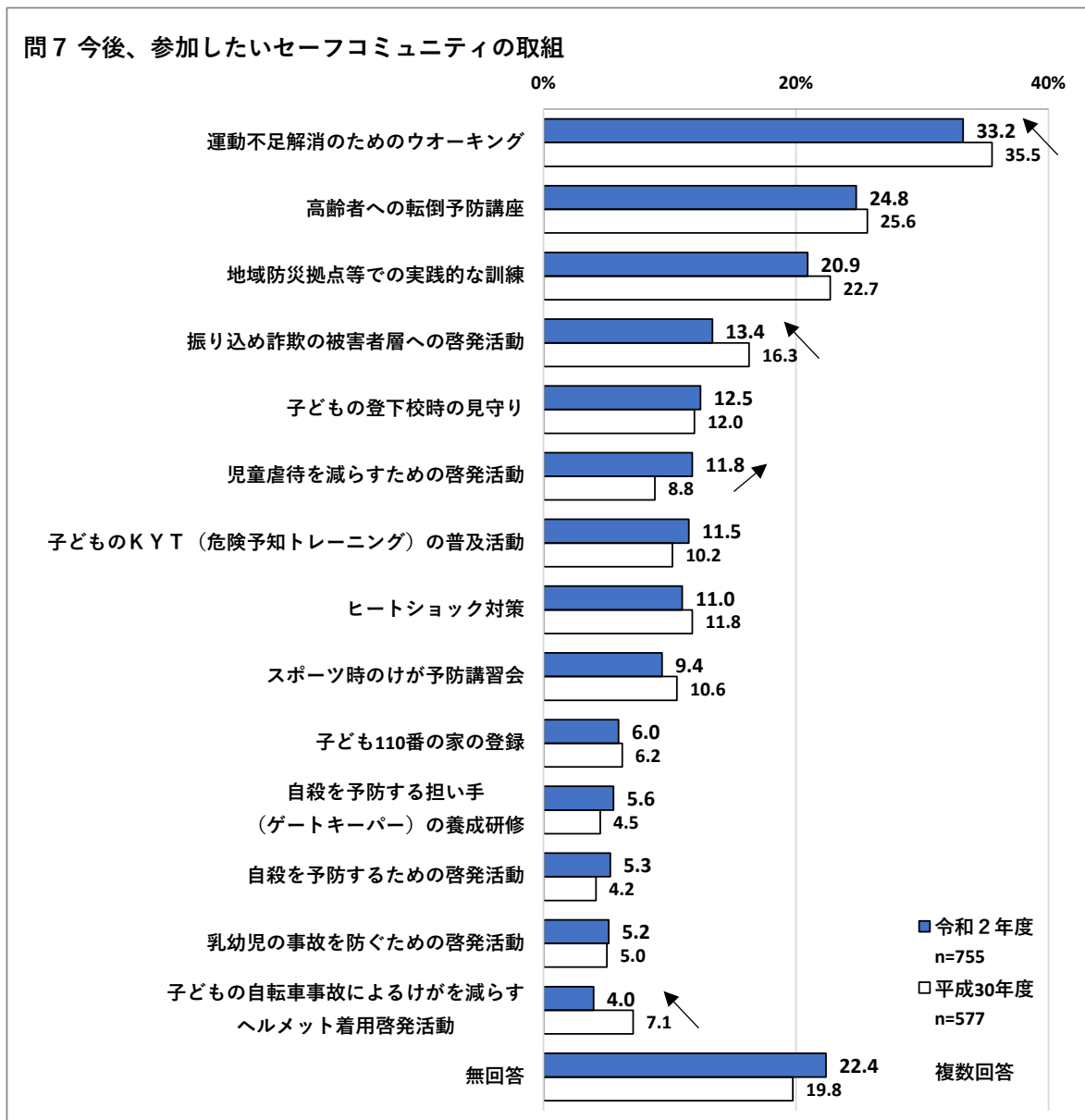
(7) 参加したいセーフコミュニティの取組

<全 体>

- ・「運動不足解消のためのウォーキング」が33.2%で最も多く、次いで「高齢者への転倒予防講座」(24.8%)、「地域防災拠点等での実践的な訓練」(20.9%)、「振り込め詐欺の被害者層への啓発活動」(13.4%)の順である。一方、「子どもの自転車事故によるけがを減らすヘルメット着用啓発活動」を挙げた方は5%未満である。

<平成30年度調査と比較>

- ・平成30年度調査と比較すると、「児童虐待を減らすための啓発活動」では2.9ポイント増加し、「子どもの自転車事故によるけがを減らすヘルメット着用啓発活動」「振り込め詐欺の被害者層への啓発活動」「運動不足解消のためのウォーキング」ではそれぞれ約3ポイント減少している。



【参加したいセーフコミュニティの取組： 属性別】上位4項目

<性別>

- ・「運動不足解消のためのウォーキング」「高齢者への転倒予防講座」では「女性」の方が、「地域防災拠点等での実践的な訓練」「振り込め詐欺の被害者層への啓発活動」では「男性」の方が割合は高い。

<年齢別>

- ・「運動不足解消のためのウォーキング」「高齢者への転倒予防講座」「振り込め詐欺の被害者層への啓発活動」では、年齢が上がるほど割合が高くなる傾向が見られる。

<居住地区別>

- ・「本郷第三地区」では、「運動不足解消のためのウォーキング」の割合が、全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

- ・「夫婦2人」では、「運動不足解消のためのウォーキング」と「高齢者への転倒予防講座」が、「親と子と孫(3世代)」では、「高齢者への転倒予防講座」の割合が、全体より5ポイント以上高い。

